



JR東労組仙台

East Japan Railway Workers' Union SENDAI
東日本旅客鉄道労働組合 仙台地方本部

発行者:佐々木克之

編集者:情宣部

2023年7月10日 No.2



東北三地本HP

「第39回定期大会」 大会宣言

大会宣言(草案)

本日、JR東労組仙台地方本部は、イベントホール松栄において「第39回定期大会」を開催した。組合員の声を基にした、たたかひの成果と課題を共有し、命と安全を守り、職場からの実践であらゆる課題解決に向けて組織強化・拡大を推し進める運動方針を満場一致で確認した。

コロナ禍の3年間、要員が逼迫する中で、「融合と連携」によりこれまでにない働き度で黒字化をめざし奮闘してきた。23春闘は低額相場を形成しようとする社内世論を跳ね返すたたかひをつくり出してきた。しかし、会社回答は私たちの要求とは大きくかけ離れたものであり、再申し入れ交渉を行うも要求を実現することはできなかった。夏季手当交渉は3期ぶりの黒字転換を達成した中で期待が多く寄せられたが、会社は「目標に届いていない」「楽観できない」「順風満帆ではない」と納得感のない回答に終始し、これまでの奮闘や職場の努力に報いない回答に失望と怒りの声が上がっている。低額賃金に抑えこむ経営の意思を打開することはできなかったが、さらなる労働強化と賃金を抑制しようとする会社の狙いを見抜き、社員の意識転換を図ろうとする経営姿勢に組織強化・拡大で立ち向かっていこう。

安全が脅かされる事象が各地で発生している。国府津運輸区や宇都宮運輸区の懲罰的な日勤教育は精神論であり事象の原因究明もできず明確な対策を打ち出すことはできない。また、豊田運輸区で発生した人権侵害・人間破壊の事象を絶対に許すわけにはいかない。福知山線脱線事故から「責任追及」では安全が守れないことが明らかになったにも関わらず、事象を悪用し、個人の責任や問題に切り縮め会社へ忠誠を誓わせようとする姿勢は懲罰の恐怖による押さえつけにしかない。このような職場風土ではいつ大きな事故が起きてもおかしくない状況である。会社の官僚化を許さず、本音で語れる安全第一主義を取り戻すために、「責任追及から原因究明へ」の安全哲学の再確立をめざしていく。

「融合と連携」による柔軟な働き方や各種施策が職場で準備不足のまま進められた結果、歪みが生じ、教育・訓練が形骸化され、安全と質の高いサービスが提供できない状況だと声が出ている。各種施策の検証を行い、職場の声や不満を掴みとり諸課題を解決していくために職場からたたかひをつくり出そう。

地方ローカル線の問題について、鉄道事業者と自治体、国の協議を本格化する再構築協議会が設置される法改正が行われた。単に収支や利用者数だけの議論では地方の更なる人口減少と衰退が危惧される。仙台地本「ローカル線プロジェクト」は、これまで気仙沼線・大船渡線BRTの現地視察や地域の鉄道利用促進に関する提言の提出、関係する議員との意見交換会をつくり出し、多くのことを学んできた。今後も地域や関係する議員との連携を深め、そして自治体と課題認識を一致させ、誰からも親しまれ地域から必要とされる鉄道を目指して広範なたたかひをつくり出していく。仕事と雇用を守るため当事者意識を持ち、地方ローカル線で働く私たちの将来は私たちの手で切り拓いていこう。

ロシアによるウクライナ侵攻が長期化する中で、防衛費の増加や鉄道の軍事利用が議論され、日本は戦争する国へと突き進もうとしている。常に犠牲になるのは労働者や市民であり、私たちは戦争が招いてきた歴史的教訓を忘れてはならない。誰もが安全で安心して暮らせる社会を実現するため、憲法9条を守り広め、あらゆる戦争政策に反対しよう！多くの連帯する輪を広げるために、推薦議員と組織内議員「羽田ふさお」福島市議会議員と共に最後の最後までたたかひをつくり出していく。

「新生JR東労組運動宣言」を基に議論を積み重ね、命を価値基軸に職場からの実践を通じて更なる組織強化・拡大を実現し、全組合員で未来に向かって自信を持ち前進していこう！

以上宣言する。

2023年7月8日
東日本旅客鉄道労働組合
仙台地方本部
第39回定期大会

あらゆる課題の解決に向けて、職場からの挑戦で
組織強化・拡大を実現しよう！